

## 第2回大田区自転車活用推進委員会 議事要旨

- 1 日 時 令和元年8月2日（金）午前10時から正午まで
- 2 会 場 大田区民ホール アプリコ 地下1階展示室
- 3 出席者 「委員名簿」のとおり
- 4 議 事
  - (1) 第1回委員会のまとめ、第2回委員会の協議事項及び
  - (2) 大田区自転車等利用総合基本計画の取り組み

屋井委員長	自転車の交通事故データについて、出典は「東京の交通事故」であるが、グラフに記載されているデータは大田区のみ抜き出したものでよいか。
事務局	グラフに記載したものは、大田区のデータである。
屋井委員長	自転車事故も、全事故に対する自転車事故の比率も、減ってきたと思ってきたが近年増えている。自転車保険の加入など、事故時に届け出る人の増加なども考えられるが、対応が必要な状況にある。
荻山委員	p3にある駅周辺の一時的利用の利用率は、どのように調べられているのか。
事務局	例えば、蒲田駅周辺の区本庁舎前の一時的利用駐輪場は、入出庫が自動的にカウントされる仕組みとなっており、これらをもとに作成している。
荻山委員	警察の防犯登録のデータから、エリアごとの自転車保有状況の割合を確認することができると思う。放置自転車の発生状況等も含めて、駐輪需要と地域との関係も見必要がある。
屋井委員長	放置自転車がどこに発生しているのか、というのは今回の資料にはないか。全体的に放置自転車が減ってきた、というデータはわかるが。現状では、蒲田駅の放置自転車がが多いと思うがどうか。
事務局	ご指摘の通り、放置自転車は蒲田駅が多く、大森駅が次いで多い。
荻山委員	放置自転車が発生する場所と、コミュニティサイクルが活用される場所はシンクロしているのではないか。コミュニティサイクルが増えるほど、自転車を所有する人が減る。例えば、駐輪場とシェアサイクルのポートを併設するなど、財源の使い方も含めて合わせて検討することも重要ではないか。
屋井委員長	駐輪場、サイクルポートをどのように整備するとよいのか、コミュニティサイクルなら路上にとめても違法駐輪でないのか、などいろいろな議論が生まれそうな意見である。
屋井委員長	この委員会では、暮らし、観光、健康などの自転車活用の視点を中心に協議したいということで説明いただいた。いうまでもなく、暮らし、観光、健康の自転車活用を議論すると、とめる、はしる、まもる、にもより高いレベルを求めることもある。その点では、合わせてご意見をいただければと思う。
屋井委員長	現行計画などの分厚い冊子は、持って帰る必要があるのか。
事務局	荷物になると思うため、それぞれのご判断でお持ち帰っていただくことも、置いて行っていただくことも、どちらでもよい。置いておかれる場合は、こちら

	で預かり、次回に机上に配布させていただく。
屋井委員長	時間の兼ね合いもあるため、次の議題へ。

(3) 計画策定段階からのプロセスについて

屋井委員長	資料の p2 にいくつかの事例が載っているが、他の自治体の事例なのか、大田区で実施した実績があるものなのか。このような取り組みを提案したいということか。
事務局	当該頁の事例は、全て他自治体の事例である。
樋口副委員長	資料の中では、区民参加という表現があるが、漠然としている印象がある。ここでいう区民というのは、区民全体と考えるのか。自転車の区民参加と考えると、例えば地域性のことも考慮する必要がある。
事務局	いきなり区民全体を巻き込んで進めていくことは難しいと考えている。小規模でも良いので、区民と連携していく形で検討を進めていきたい。例えば、おおたフェスタ、親子自転車プロジェクトなど、色々実現できるものを適宜企画していきたい。この委員会でも色々な意見を頂きながら進めていきたい。
屋井委員長	区民参加という表現は漠然としているが、できるだけ大らかに考えて進めていくと良い。一つ一つの取り組みに参加する人の数は少なくても、機会を増やしていき、楽しんで行くことが重要と思う。楽しんでいることを、周りの人に見せていく、見てもらう、知ってもらう、ということも、夢があってよい。前回のように、アンケートを答えることが参加だ、というのは早急かと思う。
柏原委員	区民意識調査など、区民の意見を広く聞く調査等はあるか。
谷田川委員	区でも区民意識調査や世論調査を活用して、走行環境、コミュニティサイクルなどの内容を区民から聞いているほか、交通政策基本計画で交通安全関連の意見を区民から聞いている。 また、区民参加を前提に、様々な調査を進めていく中で、関連する人数が多くなるほど多様なご意見が出てきて、区で対応が難しいものや、区の施策と異なる方向性の意見も出てくる可能性がある。そのため、区民参加の手法や体系などを議論すべきと考える。
荻山委員	コミュニティサイクルの会員登録やアンケート調査等から、個人ユーザー、法人ユーザー等が割り出せると思うが、このようなデータが開示されると良い。コミュニティサイクルの会員登録等は、自転車通勤モニターと整合する部分もあると思う。
事務局	コミュニティサイクル事業は、試行的に3年間実施している。現在、別の委託で効果検証を進めている。当該業務の中でアンケート調査も実施しているため、今後、頂いた意見を参考にしながらコミュニティサイクルの効果検証を進めていく。
屋井委員長	大田区でもウーバーイーツの利用は増えているのか
事務局	大田区ではそれほどでもないと思う。

福田副委員長	<p>資料 p2 の観光の事例として「散走」が挙げられている。</p> <p>大田区で観光の視点で自転車を活用することを考えたとき、堺市の例のように、観光資源として何をてもらいたいのか、の検討から始めなければいけない。大田区では町工場、歴史遺産等が考えられるが、例えば、区民参加イベント等を通じてアイデア出しをしたうえで、ルートづくり等を進めていくことが必要。類似した取り組みを調べていくことも必要。</p>
室谷委員	<p>散走に関しては、堺市だけでなく、東松島市でも呼ばれて行ってきた。</p> <p>今の時点では、ツールド東北等が行われているが、年に1回の一過性イベントであることから、広域観光、インバウンド等の視点から、どのように東松山市を見せていくか、ということを議論している。京都等の著名な場所でも、色々な地域で取り組みを進めている。地域の人が、地域の魅力に気づいていないということが課題であり、地域と連携した取り組みが重要。</p> <p>最近、サイクリスト国勢調査という調査が行われており、ターゲットの種類、色々なセグメントごとのニーズ調査等が行われている。</p> <p>散走は、比較的日常の中での取り組みで、レースや競技等を行うよりも敷居が低い取り組みと思う。</p>
金野委員（代理）	<p>大田区では、観光資源が十分に認知されておらず、地域に埋もれる素材に気づいていない。池上本門寺、勝海舟記念館など、魅力的な地域資源、観光資源があると考えている。ただし現状では、点と点で存在するものの線で繋がっておらず、自転車をつないでいくことが必要と考える。</p> <p>現在、東海道、羽田空港等、徒歩での色々なルートマップをつくっており、自転車でのルートづくりを検討していきたい。</p>
屋井委員長	<p>この計画ができる前に試行を行い、例えば来年ぐらいから、様子を見て連携していけるとよいと考える。</p>
佐々木委員	<p>健康に関する取り組み例として、さいたま市の事例が掲載されているが、大田区でも12月の事業開始を目指し、健康ポイント事業の検討を進めている。スマートフォンの歩数計の機能を活用してポイントをためていく。歩くだけでなく、健康診断の受診でもポイントが付く仕掛けを考えている。</p> <p>国保加入者の有病率が23区で一番高いことなど健康上の課題を解消する取り組みとして、楽しみながら健康になっていただくという形をイメージしている。本計画でのモニタリングでも活用できる視点と思う。</p>
屋井委員長	<p>ためたポイントは何に使えるのか。</p>
佐々木委員	<p>ポイントについては、抽選方式になるが、区内企業から提供いただいた商品等と仕組みを検討している。</p>
屋井委員長	<p>商品と交換、という視点だけでなく、例えば、横浜市が行っているような、みんな歩いて30万歩越えたら、協賛企業からアフリカ難民への支援が行われる等、自分の取り組みが社会貢献に繋がる、という視点も良いと考える。</p> <p>自転車での移動では、ポイントが付かないのだろうか。</p>
佐々木委員	<p>自転車の活用として視野に入れながら、事業の制度設計を進めていきたい。</p>

屋井委員長	自転車の利用が、例えば地域での見守りパトロール等に繋がるなど、社会的な貢献に繋がる考え方でもよい。自然体の見守り機能を進めることが、自然に健康にもつながる、という視点である。
荻山委員	先ほどの観光マップの件で、将来的にでもよいがアプリ化するなどの方向性はあるか。 コミュニティサイクルをインバウンドとして取り組んでいく場合、外国人の方がコミュニティサイクルを使って観光資源を巡ることが発生する。 その場合は間違いなく、自身の所有するスマートフォンを見ながら乗ることが発生する。この場合、始めから自転車にアプリのツールが内蔵され、GPS等を活用して情報が見られるような自転車の仕組みを考えていく必要がある。大田区だけでなく、都全体の話になってくるが、メカニカルな部分で改良をしていくことで、世界のシェアサイクルに負けないものになると思う。
屋井委員長	区民参加に関して、ステップ1、2、3の中でも、様々な工夫をして参加を促していきましょう、ということ。よろしいか。

(4) 活用の基本方針と具体的な取り組みの検討について

屋井委員長	資料に記載されている「海辺の散策路」の整備について確認したい。これは大田区の中で計画をつくり進めている事業と思うが、内川から天空橋近くまで記載されているが、どこまで整備する予定か。さらに延伸する予定とか。
鈴木（隆）委員	貴船堀等では水門等があり渡ることができない場所がある。東京都と協議し水門を取っていくことで検討を進めている。水門が取れることで天空橋や多摩川にも繋げていく計画を考えている。これにより、臨海部、多摩川など、散策路が繋がってくると、さらに面白くなってくると考える。
屋井委員長	海辺の散策路の通行空間は、自転車が通行できるものか。
鈴木（隆）委員	構造上は通行できる。
屋井委員長	交通規制上は、どのような形になっているのか。
鈴木（隆）委員	交通規制上の位置づけは協議中である。歩行者、自転車がともに通行できる形の散策路を検討している。
屋井委員長	例えば、羽田空港を一周できるような通行空間ができると自転車にとっても面白いと考えている。ハードルは高いと思うが。
福田副委員長	臨海部の取り組みについては、本日の午後から空港臨海部に関するマスタープランの検討会議があるが、その当りとの連携等も盛り込めるとよい。情報の共有なども含めて。
鈴木（隆）委員	区内でも色々なプロジェクトが動いている。包括的に動いていながら、施策やプロジェクト同士を繋げながら進めていく。
樋口副委員長	大田区内には、まちづくり協議会等が5団体程度ある。このような団体にもデ

	<p>一タ集などの資料を配布して情報提供をしながら、アンケート等にも協力していただけるように進めていくのはどうか。まちづくりには色々なアプローチがあり、海辺にもまちづくり団体がある。</p>
屋井委員長	<p>データ等を通じて実情をしっかりと伝え、まちづくりに関わってもらうことが大切である。区民参加の一部として、自治会を巻き込んでいく考え方が良い。</p>
事務局	<p>データ提供等も含めて、どのような連携ができるか検討を進めていきたい。</p>
北方委員	<p>今回の資料では、健康に良い等の色々な面白いデータが提供されている。このようなプラスの情報を、区報、フェイスブックなどで提供していくと良いと思うが、現在はどのような情報を区民に流しているのか。</p> <p>自転車の情報だと、自転車事故等のマイナスの広報が中心となってしまう。健康に良い等の情報や、コミュニティサイクルの取組等を含めて、区報や様々なツールで提供されると良い。</p>
事務局	<p>区民への周知に関しては、自転車活用の観点ではあまり出来ていないのが現状である。安全利用に関しては、6月にながら運転、8月に自転車保険、10月の予定でシェアサイクルなど、区報に掲載している。</p> <p>今後、自転車活用で周知できるものがあれば、区報等を通して積極的に進めていきたい。</p>
屋井委員長	<p>資料の p14 に記載されているシマノ社の取り組み等を、区の企業と連携してモニターを募り、進めていけると良い。</p> <p>この事例では約2か月をかけてモニター調査をしているようだが、このくらいの期間は必要と思う。また、効果のある時期や方法等があれば聞いておきたい。</p>
室谷委員	<p>最近の例として、ドコモ社と連携して社員の方がモニターとなり、ドコモのシェアサイクルを利用した検証をしている。電動アシスト付き自転車でのモニターになるが、スポーツ自転車を使ったときと類似した結果が得られてきている。しっかりペダリングできるような乗り方をすることが大切である。</p>
屋井委員長	<p>大田区については、自転車を代表交通手段として利用する人が多く、既に自転車を利用している人は健康的なのだろうと思う。せつかくなら、これを機にモニターで参加してもらい、どの程度変化するかを調べていけるとよい。</p>
室谷委員	<p>ご要望があれば協力できることがあると思う。</p> <p>例えば、いわゆるママチャリ等でも、若干サドルを挙げて乗るほうが健康に良い。身体に良い乗り方も一緒にレクチャーしていくことが大事である。</p>
屋井委員長	<p>是非、トライしていきましょう。</p>
荻山委員	<p>当社のグループ企業の中で、電車通勤をしている人と、自転車通勤をしている人でインフルエンザの感染率を比べると、自転車通勤の人の方が、明らかに感染率が低い。電車内での感染が防げるということだと思う。</p>
屋井委員長	<p>資料 p10 にある生活習慣病と高齢者の割合について、「原因」と書いてあるが、どのような因果関係があるのか分からない。</p>
事務局	<p>資料は「原因」と書いてあるが、説明では「一つの要因」ということで表現した。前回、大田区が生活習慣病の有病率が特別区で一番高いとしたが、数値的</p>

	に高い要因を見たところ、高齢者の割合が高かったということである。
屋井委員長	高齢者が多いため、どうしても生活習慣病の有病者も多くなるという理解でよいのか。
事務局	次までに、改めて確認する。
屋井委員長	資料5については、楽しいデータであると思うが、資料4については、方向性が示されないと議論しづらいだろうということで大田区の考えを提示されたという理解である。取り組み例として1～12のイメージが示されているが、このようなイメージで良いかということを確認したいということ。 活用推進計画については基本的にプラスの部分伸ばしていこう、と考えたとき「暮らし」「観光」「健康」のキーワードについては概ね了解頂いていると思うが、その詳しい方向性のイメージであり、さらに意見があればいただきたい。イメージの中で、新スポーツ健康ゾーンとあるが、自転車については、どのような事項が考えられているか。例えば、トラック競技のようなものか。
森住委員（代理）	新スポーツ健康ゾーンに関して、区には競技施設等が色々あるが、立地条件の制約等から、多くの施設が臨海部に集まっており、かなり広いエリアに対して体育館、スタジアム、大きな公園、スポーツ施設等が分散している。 現在は臨海部に点として存在しているが、線で結び、面で活用していきたいというのが構想である。当該エリアに来てもらえれば色々なスポーツができ、点と点を結ぶ移動としてウォーキング、サイクリングを活用していく。
屋井委員長	施設間を自転車で結ぶ、ということを考えているということが良いか。
柏原委員	今回の資料ではコミュニティサイクルのポート、バス路線の情報があつたが、バスでは回りにくい場所にある。これに対して自転車で回れることをPRできるとよい。そこに行くだけで運動になる、その中で楽しむとさらに運動になる、2倍の効果があるという考え方である。
小島委員	スポーツ推進課と連携して、テクノフロント森ヶ崎で、昼時間の30分を活用してヨガのレッスンを行っており23人が参加している。 国ではスポーツ基本計画の中で、健康経営を推進しており、スポーツを推進している。健康経営を進めた企業は、優良企業の認定がもらえる。 例えば最近の若者はブラック企業等の言葉に影響されることもあるが、健康経営の優良企業としてホワイトであることを証明できる。 町工場等の方が「イメージ悪いかな」といわれることもあるが、例えば、自転車通勤できて、健康経営の企業として認定されていると、それもPRに使える。企業の決裁権を持っている方に情報を提供しながら、民間からのアクションもしながら、相乗効果を生んでいくことも期待できる。
屋井委員長	そのような取り組みはぜひ取り入れていきたい。自転車の様々なメリットに関する冊子を作って企業に配るなど、そのような展開も考えていくと良い。
鈴木（麻）委員	企業としての取り組みが期待されていることを感じており、キャノン社としても健康経営に務めている。一方で、自転車通勤者の現状を考えると事故の問題等も懸念されており、インフラ整備等の課題がクリアされていくと、自転車通

	<p>勤に前向きな経営者も増えていくと考える。国内キャノングループでも、数件の自転車事故が発生しており、安全教育、ヘルメット着用の推奨等にも取り組んでいる。</p> <p>個人的には、大田区に20年住んでいるが、水と緑に溢れた区になっていくことを楽しみにしている。城南島、野鳥公園、サイクリングロード、大きな公園等もあり良いエリアである。有識者の皆さんの意見も組み入れながら、安全と理想的なまちづくりが両立できる、先進的な取り組みができるのではないかと期待している。</p>
--	---

(5) 自転車に関する調査の再設定について

鈴木（麻）委員	<p>前回、アンケートに関して色々な意見を反映していただき、良い内容になっていると思う。企業としても、協力していきたいと思う。</p>
屋井委員長	<p>アンケート調査に関しては、本日以降、気づいた点があったら、事務局に個別に連絡をいれるということでも良いか。</p>
事務局	<p>アンケート調査については9月1日からの実施を予定している。そのため、一週間程度であれば対応ができるため、何かあれば事務局にご連絡を頂ければ対応したい。</p>

(6) 全体を通した追加意見について

河野委員	<p>コミュニティサイクルポートについて、資料2にマップが掲載されているが、駅前にポートがないのは、活用推進という視点で行くと利用しにくい環境にあると思う。今後、駅前に設置していく予定があればお願いしたい。</p> <p>また、自転車利用を推進していくとすると、やはり安全面の情報は重要であると思う。区内の自転車事故の多発ポイント等の情報もあれば提供いただければと思う。</p>
事務局	<p>適宜対応していきたい。</p>

以上